きには之を救濟するの一策として、城郭を修築したり、河川を浚へ堤防を築いたり、又道路の普請をしたりする事を、政事家の務として、故らに之を實行したものである。我が豐太閤が凶年飢饉の際に、淀川及桂川の普請を命じたことは、史上に明かなる事實である。昨今失業問題の喧しき折柄、之を救濟するの必要あれば、迚ものこと、彼等失業勞働者を夫れ〴〵各地方へ振向けて、道路工事に從事せしむるは、一舉兩得の策である。聞く所に依れば我が當局の失業救濟事業中にも之に類する案件ありと云へば、余はこの點に就きては、英國の實例に倣ひ、稍〻大規模に之を實行せんことを欲するのである。

道路施設の緩急

菊池愼三

一

數年前までは東京の道路は世界無比の惡道として、非難囂々たる有樣であつた。所が復興事業の完成と共に、東京の道路は見違へる樣になつた。鋪裝工事の尙行き渡らない所もあるが、簡易鋪裝工事の普及と共に其の缺點の補はれるのは間もない事である。或は東京の復興道路が立派過ぎると云ふ者もある。現在丈けの事を考へるならば、立派過ぎると云ふことが寧ろ當然である。永久建築

物の建ち揃つた後の街路擴築は通常の場合考へ難い事である。所謂百年の大計として大震災を轉禍爲福の好機として、復興を計畫したのであるから、現在眼前の必要から云へば立派過ぎるが當然である。夫でも大東京の將來を達觀するならば、復興の計畫の規模は尙小に過ぐると云ふ者があつても不思議はない。後藤伯は屢々大風呂敷であると批評せられるけれども、出來て見れば臺灣の都市經營でも、滿洲諸都市の施設でも、大き過ぎたものはない。却て小なる感がしたと謂はれた事があつた。筆者は復興計畫の大小を論ぜんとするのではない。唯帝都の道路施設が復興事業の完成を轉機として面目を一新したことを見るにつけて、災前は吾帝都の恥辱であるとまで言はれ來つた道路施設が逆に帝都の現在の必要以上であると云ふの見方が行はれ、別言すれば帝都の必要に比して道路施設は、甚だ後れを取つて居つたものが、今は道路施設の方が一歩を進めて居ると云ふ有樣となつたことに對して興味を以て眺めるものである。

二

一體土木事業は古今の政治史上暴政虐政の項目に數へられる例が多い。元來土木事業は人類の福祉に寄與する所甚だ多大であり、今日に於ては黨勢擴張の絕好手段と目せられ、地方民の要望最も切なる所であるに拘らず、而も尙往々にして大土木施設の要否緩急に付ては兎角議論が絕えない有樣である。地方多年の要望懸案たる事業たる場合で、必要自體は議論の餘地のない場合でも、扨て之

を解決する方法の如何、乃至は解決する時期の如何、或は單に其の時の政治的勢力の如何、若くは之を主唱し之を題材とする人物の如何、黨派關係如何丈けで、尙問題は紛糾し錯綜する例もある。土木事業は常に政爭の題材となる虞れがある。政爭の題材となることの已み難い場合に於ても、希くば其の本來の必要が力說せられ、地方的必要の前には、黨派的の妨碍も其の威力を發揮するの餘地のない樣に進行せしめたいものである。一層望ましいのは地方的利害の實質に目醒めて、黨派を超越した問題として取扱はれ、財源の許す範圍に於て著々解決遂行せられることを期したいものである。

三

公共の施設は眼前當面の需要のみを考慮することでは足りない。永遠の生命ある公共團體の事業は、活眼を開いて將來に於ける社會公共の需要を滿たし得る如く常に工夫を凝すことを要する。唯到る所常套語の如く財政難を訴へ、財源窘窮に苦しむ現時の地方財政の有樣に於ては、左顧右盼經常的收支の均衡維持に沒頭し、甚しきは之までに生じたる不均衡缺陷の補塡に追はれて維れ日も足らず、眼前の需要だも滿たし難い有樣で、何ぞ百年の大計を云爲するの遑あらんやと云ふの外なきもの比々皆然るの有樣である。併しながら筆者の經驗を以てすれば、如何に財政難と云ひ如何に財源窮乏を訴へる地方自治體に於ても、改善補塡の途は必ずしも見當らないものではない。常套語としての財政難を口にすることは、無謀なる要求不必要なる經費の要求を拒絕するの豫防線とし、乃至は

正當なる意味に於ける緊縮整理冗費節約を貫行する上から有益便利であるに過ぎない。眞の意味に於ける必要なる地方公共の施設は、財源難を理由として阻止せられること又は阻止せらるべきことは許されないのである。地方公共の施設を講ずることが公共團體本來の任務職分であるので、眞に必要なる地方公共の施設を講じ得ないが如きことあらば、公共團體の自滅的行爲である。財政の按排は地方施設の必要に基づいて工夫せらるべきものである。唯一方には事に緩急があるので、兎もすれば叨りに事業慾に驅られ叨りに不急の施設を企て事功を建てんとするの功名心に驅られる弊害を防止する必要あるを思ふのである。

四

地方公共の施設が時宜に適せるものであるか、土木施設が眞に所謂緊急已み難きものであるかは之を冷靜に考慮批判する場合に於て、可なり議論が分れる問題である。兎もすれば局に當る者は施設の必要は論のない所であるとし、唯之を支辨すべき財源なきを如何と云ひ、一に責を財政に歸せんとする者がある。公共施設の要否は財源と對照して斷定することが、當然なのであり、地方に眞に必要にして緊急なる施設であるならば、亦之に相應する支辨の途を講じ、結局之を分賦分擔せしめる途が存する又は存すべき筈である。結局概括すれば地方住民一般が之に關する費用分擔の苦痛を忍ぶも、尙ほ爲すに値するか否か又は爲さゞるを得ないか否かに依つて始めて適正なる結論に達する

のである。起債に依るべきや否や起債を許すべきや否やの眞の標準も、亦結局此の如き比較考案の結果定むべき筋である。分業の今日では事業部局は遮二無二施設遂行に焦り、財政部局は又無二無三之を防止せんとするが過ぎたるは尙ほ及ばざるが如しで、共に眞の地方公共の利益に背馳する虞なしとしない。大局より觀察して社會の進運と共に絕對必要なることの疑を容れない事業がある。單に之を其の日送りに後日に遷延するが如きは、眞に地方民政に忠實なる所以ではない。

五

地方の狀勢が急激なる發展膨脹を來す場合に於ては、必要なる土木施設は一日を遲れゝば一日丈け不便を忍ばなければならないのみならず、急激なる地價の暴騰沿道工作物の建設、補償すべき營業權の增加等の爲、結局遂行しなければならぬ土木施設の爲、地方財政に一層多大の負擔を來すこと見易きの理たる場合がある。卽ち郊外の開發は寧ろ道路施設を先にし、次で建築が伴ふことが望ましいのであるが、我都市郊外開發の狀況は常に其の逆に進んで居るので、不便混亂甚しいのみならず、地方財政上將又國家經濟上不經濟不合理も亦甚しい有樣である。此の大勢を取り返して行き郊外の發達膨脹に道路施設が追隨し、出來得べくんば之を追ひ拔くまでに土木施設を急施すべき必要がある。所謂緊急一日も差し措き難き最も適切の例である。東京府の都市計畫事業費の款項の金額は大正十四年度乃至昭和三年度の間に三百萬圓臺のものが、千百萬圓以上に累增したのは專ら郊外道

路施設急施の爲であつた。公私經濟の緊縮整理と而して地方公共の必要施設の遂行とは決して相容れないもの、相併行し得ないものではない。秋田縣の財政整理歲入缺陷補塡に、之に依つて財源たる起債收入を流用使用し盡された產業道路施設を豫定通り遂行するが爲に必要已むべからざるものであつた。逆に云へば歲入缺陷を補塡するに非ざれば繼續費として遞次繰越され、而も財源たる起債收入を全く流用し盡された產業道路施設は當然打切中止せられるより外のない狀勢に在つたのである。財政整理は必要なる道路施設遂行の前提となつたのである。此の道理が分らないで反對の爲の反對をするは黨派心に蝕まれた地方議員の愚劣さに外ならぬ。單なる節約の爲の節約なるものがあるべきものではない。節約の結果或は減稅し、然らずんば節約の結果從來の缺陷を補塡し或は積極施設に充當し得るのである。更に又不況の甚しき際こそ、而して物價勞銀の下落甚しき今日の如き際に於てこそ、必要なる土木施設を貫行すべき絕好の機會である。失業救濟の爲にする施設としても、必要なる土木施設は一日を忽にするを得ない。所謂失業救濟事業の形式は能率其の他の點に於て、經濟的に不合理なものであるが、併し一方社會政策的見地から施設價値を見出し得るのであるから、假に一定の割合の不利が伴ふにしても、單なる經濟的利害を打算するを止めて、時代に適應したる土木施設遂行の機會を捉ふべきであらう。